年頭所感

会長　藤井松太郎

わが国経済復興の速やかさは，西独のそれとともに世界の眼を瞠らさしたものだが，経済復興の基盤を建設した者はわれわれ建設人であった。東京，大阪などの建設ブームはその逞ましいエネルギーで，見る者を驚倒さすのだが，日本全国どこへ行ても，道路，鉄道，港湾などの交通機関の整備が行なわれ，水火力発電などのエネルギー源の新設が見られる。昨年度においても，それらのうち，世界的規模を有するいくつかの大工事が完成した。誠に御同慶に耐えない次第である。今こそ建設人の各位が，日本を築くものはわれわれ建設人であるという誇りを持って然るべきであり，またその誇りを持つことこそが，従来ともすれば封建的といわれ，世間的には比較的低位に考えられていた建設業を，文字どおり近代産業の先駆たらしめる所以であろうと考える次第である。

国土再建のための建設事業は将来とも現在以上の規模をもって続行されるものと考えられるが，建設事業の中心をなす土木技術者は，量的にも質的にも，現在すでにはなはだしい不足をきたしているのが，いつわらざる実状である。国の意図する経済拡張計画を遺憾なく遂行するためには，ぼう大な建設事業を消化せねばならず，これには多数の中級，高級の土木技術者を必要とすることになるので今にして適切な方策を講じなければ，せっかくの経済拡張政策も，いたずらなる画餅に帰するおそれ無しとしないのである。わが土木学会は数年来，政府に向って，土木技術者養成機関の拡充と，養成にたづさわる教授陣の待遇改善の必要を進言し続けたのであるが，政府が卒直にわれわれの要望に耳を傾け，速やかにその対策を樹立するよう切望するものである。他方，土木技術者の強化拡充は，一般国民なかんづく次代を背負う青少年が，よく建設事業の重要性を理解し，それにたずさわることに誇りを感ずるようにならなければ，その実があがらないと思われるので，学会は今後とも，映画，講演などを通じて，一般大衆とくに青少年に向って，建設業のＰＲを続ける方針である。

現行土木学会の定款は戦後数度の改正を経て今日に至っているが，その後の社会状勢の推移により，現状にそぐわない点も多少見られるので，目下その改正を検討中である。要は学校，官庁，建設業などに籍を置く土木学会会員の各位が，土木学会を通じて一丸となり，土木技術，土木事業の発展に寄与する態勢を強化せんとする念願にほかならない。

わが土木学会は明昭和39年11月，創立50周年を迎えることとなる。創立50周年の記念事業については，一昨年末，50周年記念事業委員会が設置され種々画策中であるが，学会の本部が現在のように狭隘では，学会活動にも，すくなからず支障をきたすので，何をおいても記念事業の一環として，学会の本部らしい会館を建設したいものと念願している。これについては，記念事業委員会が鋭意努力中であるので，われわれの共通の願望は必ず達成されるものと期待している。爾来，土木技術者は，独り専門の土木技術のにない手であるのみならず，土木技術が綜合技術であるゆえをもって，科学技術全般の企画者ないしは指導者としての実力と誇りを持ち続けてきた。現代の目ざましい技術革新の時代に処して，この実力と誇りを持ち続けることは容易の業ではない。会員各位の御自重と御努力をこひねがう事切なる所以である。今年も希望に胸をふくらませ，土木技術者たる誇りに肩を張って，新しい年を歩み続けたいものである。